

wallpaper.sty V. 1.00 マニュアル

Michael H.F. Wilkinson

日本語訳: 田中健太*

2005年11月13日

1 はじめに

L^AT_EX のスタイルファイル `wallpaper.sty` は、文書やスライド、ポスターの背景に画像（壁紙）を使いたいという望みを持つ人々が、それを簡単におこなうことができるように開発されました。そのような機能は、すでに Alexander I. Rozhenko による `watermark.sty` や Rolf Niepraschk による `eso-pic.sty` などが実装しています。しかしこれらのスタイルファイルは実際には、いくつかの機能を簡単に利用することができません。特に、背景画像をタイルのように敷き詰める機能は、まったく実装されていません。このスタイルファイルは、タイル状の敷き詰めや背景画像の中揃えなどを、簡単なコマンドで容易に実現することができます。これらの機能を実現するために、`eso-pic.sty` が提供するいくつかの機能を利用しました。それらの機能についてはこのパッケージでは説明しませんので、詳しく知りたい方は `eso-pic.sty` のマニュアルを参照してください。

2 導入方法

このパッケージを導入するには、ただアーカイブをお好きなディレクトリで展開すればよいだけです。最も展開に適したディレクトリは、環境変数 `TEXINPUTS` の値に含まれるところです（たとえば我々（開発者）の機関では、各ユーザごとの `.TeX` ディレクトリです）。アーカイブを展開するには、例えば以下のようなコマンドを用います。

```
tar -xzf wallpaper.tgz
```

3 スタイルファイルが提供するコマンド

このスタイルファイルでは、以下のようなコマンドを提供します。

`\CenterWallPaper` 背景の中央に画像を表示させます。背景はページ幅あるいはページの高さに対する比で指定することができます。画像の縦横比は保たれます。

* <http://www.geocities.jp/tanaken.1018/>

`\ThisCenterWallPaper` 同じ機能を、指定したページにのみ適用します。

`\TileWallPaper` 背景画像をタイルのように敷き詰めます。縦横比は考慮されません。

`\ThisTileWallPaper` 同じ機能を、指定したページにのみ適用します。

`\TileSquareWallPaper` 画像の縦横比を強制的に 1:1 に変換し、タイル状に敷き詰めます。縦横に並べる枚数を指定することができます。

`\ThisTileSquareWallPaper` 同じ機能を、指定したページにのみ適用します。

`\ClearWallPaper` それまでに指定した壁紙を消去します。

`\CenterWallPaper` には次のような引数を与えることができます。

`\CenterWallPaper{<scaling>}{<filename>}`

`scaling` 引数で、ページ幅あるいはページの高さに対する壁紙の大きさの比を指定することができます。壁紙の縦横比は、画像の縦横比と用紙の縦横比によって決まります。なお、`filename` 引数において拡張子は必要ありません。`\ThisCenterWallPaper` も同じ引数を指定できます。

`\TileWallpaper` には次のような引数を与えることができます。

`\TileWallPaper{<width>}{<height>}{<filename>}`

最初の 2 つの引数で、タイル 1 枚分の大きさを指定します。この引数の値は、`filename` 引数で指定した画像のもともとの縦横比を変えることに注意してください。必要なだけの数のタイルが、均等にすべてのページに敷き詰められます（訳注: タイル 1 枚ごとに画像が埋め込まれるので、枚数が増えれば増えるほど文書のファイルサイズが大きくなります）。`\ThisTileWallpaper` も同じ引数を指定できます。

`\TileSquareWallpaper` には次のような引数を与えることができます。

`\TileSquareWallPaper{<number>}{<filename>}`

このコマンドでは、`filename` 引数で指定した画像のもともとの縦横比に関わらず、タイルの縦横比は 1:1 に固定されます。`number` 引数は、ページ幅あたり何枚のタイルを敷き詰めるか指定するものです。前述したように、ページを埋めるために必要なタイルの数は、自動的に定められます。

4 壁紙の位置を微調整する

`\wpXoffset` と `\wpYoffset` という 2 つの値で、壁紙の表示位置を微調整することができます。いくつかのクラスファイルやパッケージは、版面の大きさを正しく伝えてくれません。そのため、壁紙を中揃えしたりタイル状に敷き詰める際に、問題が起こる場合があります。ベータ版の `wallpaper.sty` では `sciposter.cls` と併用した際に、`\hoffset` の値について問題が起こります。これは `\wpXoffset` に `-\hoffset` を指定することで解決します（このバージョンでは、それがデフォルトです）。`\wpYoffset` のデフォルト値は `0pt` です。他にも、`\setlength` や

`\addtolength` で画像位置の原点（左下隅）を移動させれば解決することができます。

5 依存関係や衝突するパッケージ

`wallpaper.sty` を使用するには、以下のパッケージが必要です。

- `everyshi`
- `eso-pic`
- `calc`
- `graphicx`
- `ifthen`

これらのパッケージは、一般的な `TeX` ディストリビューションであれば最初から収録されているでしょう。あるいは、www.ctan.org で入手することもできます。また、このパッケージと衝突する他のパッケージは、現在のところ報告されていません。

6 日本語訳について

この文書の翻訳は田中健太がおこないました。この文書は、もとの文書やパッケージ自体と同様に、“あるがまま”に提供されるものです。この文書の利用によって起こった事態に対し訳者は責任を負いません。また、訳者はこの文書についてこれとって権利を主張することはありません。転載や再配布は（正しい形で）ご自由にどうぞ。